



修了報告書の感想から一部ご紹介します。 ※学年は留学当時のものです。

【高校1年生・ニュージーランド】

- ・最初の3ヶ月間は、英語での会話に非常に苦労し、思うように意思疎通ができず、もどかしい思いを何度も経験しました。
- ・間違いを恐れずに自分から積極的に話しかけることを心がけ、分からないことはその場で質問するという姿勢を貫きました。語彙力を増やすために毎日単語帳を使って勉強し、リスニング力を鍛えるために現地のテレビ番組やラジオも積極的に聞くようにしました。そうした日々の積み重ねの中で、少しずつ聞き取れる単語や表現が増えていき、気がつけば英語での会話に対する抵抗感が薄れ、自分の考えを英語で伝えられるようになっていきました。
- ・相手の言っていることを即座に理解し、それに対して自分の意見を自然に返せたときの達成感は、言葉では表せないほどの喜びでした。
- ・日々の生活による英語力の成長だけでなく、現地の人々とのふれあいや、地域のイベントなどを通して、私は多くの新しい価値観に触れることができました。
- ・国籍も文化も異なる仲間たちと共に過ごした日々は、私にとって忘れがたい思い出となりました。言葉の壁を乗り越えて心が通じ合った瞬間の感動、共に笑い、時には助け合いながら乗り越えたさまざまな経験は、これからの人生においても大きな支えとなってくれると信じています。

修了報告書の感想から一部ご紹介します。 ※学年は留学当時のものです。



【高校1年生・ニュージーランド】

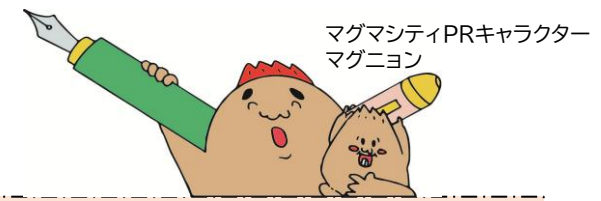
- ・不安に駆られる私を優しくサポートしてくださったのはホストファミリーの方々でした。普段の生活もとても楽しく、特に子どもたちはラグビーをしたり、ゲームをしたり、折り紙を教えたり、アニメと一緒に見たりと本当の家族のように接してくれました。
- ・家での楽しい生活とは裏腹に、学校生活は困難の連続でした。最後の三ヶ月になるまで私は授業の内容を十分に理解することができませんでした。ニュージーランドの学校では授業は全て自分で選ぶのですが、私はニュージーランドならではの授業ばかり取り、基本知識が十分でないものを受けることが多かったのです。私の興味に沿った授業内容ですごく楽しかったのですが、説明が難しく専門用語も多かったので、課題が出た際は一週間かけて完成させるほど大変なものでした。
- ・何度も失敗するうちに私に今できることは何かと考えられるようになってきました。それから私は切り替え、英語の勉強に力を入れることに決めました。次第にさまざまな人種の子たちと友達になることができ、最後の日にはたくさんの子がお見送りに来てくれ、私のいちばんの思い出となりました。
- ・私の留学には楽しかった思い出も辛かった思い出も沢山ありましたが、どれも成長につながる大切なものでした。何かが欠けていたら今の私にはなれなかったと思います。

修了報告書の感想から一部ご紹介します。 ※学年は留学当時のものです。



【高校2年生・アメリカ】

- ・この留学で学んだことのうち、一番大きなものは異文化に肌で触れたという経験そのものだ。異文化が知識としてではなく経験としてあることで、咄嗟に出てくる物事に対する感想や考え方が広がった。
- ・アメリカの学校では（どの）授業を取るか生徒自身が決める。卒業までに取りたくないといけない授業はあるが、それさえとってれば、授業を受けない時間、大学での空きコマのようなものがあったとしても構わない。また授業の種類も豊富で、農業や経済、料理、エンジニアリングなど様々で、実生活や生徒の将来の職業に関連する授業を受けられるようになっていた。
- ・自分が実感できる、留学前との変化は二つある。
 - 一つ目は好き嫌いの明確化だ。留学前の私は優柔不断で、何かの判断を求められた時、どちらでもいいとよく言うような人間だった。だが今は、何がしたいか何を好んだかなどをはっきりというようになったと思う。
 - 二つ目は人との雑談の中身だ。アメリカでの周りの人間の話の内容に影響されて、自身の周りに起こった面白かった出来事を話すようになった。
- ・アメリカで約1年過ごし、異文化に肌で触れ、あそこでしかできないであろう経験ができた。しかし1番に感じたのはいかに、（日本が）私にとって過ごしやすい国かということだ。自由に溢れ、会う人みんながフレンドリーな国であったがそれでも17年間の慣れのためか、日本の方が私にとっては過ごしやすい（と感じた）。
- ・両親のおかげでできたこの貴重な経験を活かし、自分の未来とそして自分の家族のために日々努めたいと思う。



修了報告書の感想から一部ご紹介します。 ※学年は留学当時のものです。

【高校2年生・カナダ】

- ・ホストマザーやファザーは私たち留学生を本当の家族のように扱ってくれました。休日にはショッピングモールやレストラン、観光地に連れて行ってくれてカナダの生活を体験することができました。
- ・学校での人間関係は思うようにいかず、同じ国や文化を持つ人で固まるが多かったため、もどかしい思いをしました。いろいろな国から来た留学生と談笑することはあっても、友達と呼べるのは日本人や韓国人、中国人などアジアからきた留学生達でした。改めて、自分に近いものを持つ人と一緒にいることの快適さを実感し、それを打破するのはとても難しく勇気のいることだと感じました。そして、文化の違う人たちと仲を深めるには自分の今の英語力が不十分だと感じ、悔しい思いをしました。
- ・カナダの授業は大学と同じシステムで、先生ではなく生徒が教室を都度移動していたので授業によってクラスメイトが変わります。そのため、クラスによっては頼れる人が少なかったり、孤立してしまうこともありましたが、自分から積極的に授業に参加しようとする姿勢を見せることで、大きな問題はなく学校生活を送ることができました。
- ・いろんな国からの留学生と話すことで、その国々のこと、そして日本のことも改めて学び、自国を含め世界中の国々に対してリスペクトするようになりました。
- ・言葉が通じないことの不自由さを感じるとともに、言葉が通じることの喜びを感じて、日本に帰ってからはさまざまな人と積極的にコミュニケーションをとるようになりました。
- ・そしてなにより、この経験は大きな自信に繋がりました。言葉の問題を常に抱えながら、1人でカナダの地に行き、異なる文化の中で10ヶ月間過ごした経験は私の人生の宝物となりました。

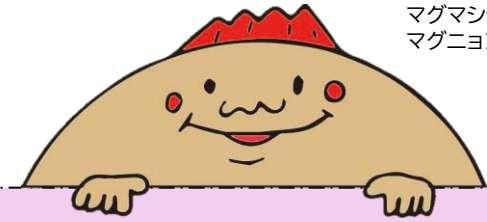


修了報告書の感想から一部ご紹介します。 ※学年は留学当時のものです。

【高校1年生・ニュージーランド】

- ・ニュージーランドに到着した時、ホストマザーとの会話がとても難しく、学校でも友達に話しかけることがとても怖かったです。最初の1ヶ月は早く日本へ帰りたいと泣く毎日が続きました。
- ・（まずは）他の国の留学生と仲良くなろうと思い、ブラジル・ドイツ・フランス・タイ・韓国・中国・デンマーク・アルゼンチンなど世界中に友達を作りました。留学生同士で休日に遊ぶようになり、自分の英語に自信がつき、授業が被っている（留学生以外の）友達とも仲良くなることができました。
- ・ニュージーランドの学校では、授業は自分が学びたい分野を選択できました。日本では教室に先生が来ることがほとんどですが、ここでは授業ごとに教室を移動する必要がありました。
- ・1学期と2学期の間に2週間の休みがあり、南の島へ旅行をしました。野生のイルカと一緒に泳いだりボートで滝を下るアクティビティがありました。初めて間近でイルカを見て、とても美しく感動し海が大好きになりました。日本では見る事ができない景色を見ることができました。
- ・留学を終えてから多言語にも興味を持つことができました。留学先での親友のフランス人と英語以外で会話をしたくて、フランス語（のスマホアプリ）も入れました。（留学生の中には）日本語に興味を持ってくれる人もいて、私への手紙をきれいな日本語の字で書いてくれました。
- ・お互いの国の言語を教えあったりして、（いろいろな）国の言語を学ぶ良い機会になりました。

修了報告書の感想から一部ご紹介します。 ※学年は留学当時のものです。



【高校1年生・ニュージーランド】

- ・「海外」は未知の世界でワクワクする反面、異国の地で一から人間関係を築いていかなければならないという経験したことのない状況に多くの心配もありました。
- ・私がニュージーランドで通っていた学校は、先生と生徒との距離がかなり近くオープンな学校で、予想していたよりも早く馴染めました。
- ・実際に様々な国のルーツを持った人々が同じ国で生活している光景はとても新鮮で、人種差別を危惧していましたが、とても暮らしやすい国でした。
- ・学校行事がとても盛んで、特に記憶に残っているのは、異文化交流です。生徒たちがそれぞれの国の伝統的な衣装を着たり、料理を振る舞ったりして自国愛や異文化への理解を深めました。日本にいたときは交流の場がなかなか無かったので、色々な国の文化に直で触れることができて楽しかったです。
- ・留学を通して繋がった大好きな友人たちと共にたくさんの思い出をつくりました。休日にはバスに乗って隣町のショッピングモールに買い物に行ったり、放課後に近くの海でビーチバレーをして遊んだりたくさんの時間を過ごしました。
- ・（ホストファミリーについて）本当に良い家族に恵まれて、留学したてで緊張していた私を広い心で受け入れてくれました。私の拙い英語も急かすことなく待ってくれたり。あたたかい家族の一員に迎えてくれたことにとても感謝しています。